

令和6年度七生特別支援学校年間指導計画

学 部		高等部		学 年		3年	
教科等名		美術		グループ名		1グループ	
ねらい		・造形的な視点を持ち、意図に応じて材料や用具の使い方を工夫する。 ・美術や美術文化に対する理解を深め、感じ方や表現を広げる。 ・主体的に美術の活動に取り組み、美術を愛好する心情を培う。					
担当教員		○松下 暖乃 柳 早苗 尾上 真理子 甲斐 琢也 臼井 雅					
年間授業時数		33					
使用教科書		小学館アートブック1 ゴッホの絵本うずまきぐるぐる 小学館					
月	単元(題材)名	指導時数	★	主な学習内容	ねらい(評価の観点)	指導の工夫	
4 ～ 7 月	・平面描画制作(モダンテクニック)	11	○	・平面作品の制作(フロッタージュ、ドリップング、コラージュ)	・様々な素材や用具の特性や扱い方を理解して、安全に使える。 ・色や形の組み合わせを考える。	・スライドショーや写真アプリを使い、制作方法、手順を視覚的に簡潔に説明し、理解を深める。 ・様々な素材や用具の使い方を経験して、安全かつ適切な扱い方の理解を深める。	
9 ～ 1 0 月	・名画の鑑賞や模写「寄せ絵をしよう」	7	○	・作品鑑賞(アルチンボルド、歌川国芳) ・寄せ絵の制作	・多様な芸術文化への、興味関心を高める。 ・具体物を組み合わせて、人の動きや顔の表情を表現できる。	・インターネットやスライドショー、教科書を使い、名画について調べる。 ・見本となる参考作品を提示する。	
11	・学習発表会に向けて	3		・小道具などの制作 ・展示の準備や片付け	・アイデアを考えて、表現ができる。 ・展示をイメージして、期待感を高めて準備ができる。	・芸術教育の充実を図るため、作品展示の機会を活用する。	
12	・鑑賞 ・名画の鑑賞や模写(クレイ)	3	○	・展示見学、他の児童・生徒の作品鑑賞 ・クレイの作品鑑賞、模写	・作品を鑑賞して、自分や他者の作品のよさを見付ける。 ・多様な芸術文化への、興味関心を高める。	・インターネットやスライドショーを使い、名画について調べる。	
1 ～ 3 月	・革工芸「レザークラフトをしよう」	9	○	・革工芸(刻印、染色)	・素材に積極的に触れて、表現に活用できる。 ・好きな刻印や色を見付ける。 ・様々な素材や用具の扱い方を理解して、安全に使う。	・スライドショーや写真アプリを使い、制作方法、手順を視覚的に簡潔に説明し、理解を深める。 ・見本となる参考作品を提示する。	

※タブレット端末を活用する予定の内容については、★欄に○をつけています。

令和6年度七生特別支援学校年間指導計画

学 部		高等部		学 年		3年	
教科等名		美術		グループ名		2グループ	
ねらい		・造形的な視点を持ち、意図に応じた表現方法を工夫する。 ・美術や美術文化に対する見方を深め、主題を生み出し、創意工夫する。 ・主体的に美術の活動に取り組み、美術を愛好する心情や態度を養う。					
担当教員		○中西 弘樹 高田 京子					
年間授業時数		33					
使用教科書		小学館アート ブック1 ゴッホの絵本うずまきぐるぐる					
月	単元(題材)名	指導時数	★	主な学習内容	ねらい(評価の観点)	指導の工夫	
4 5 6 7	・モダンテクニック 「こすって描こう」	11		・クレヨンや絵の具など、 様々な素材や用具を使っ た表現活動(フロッター ジュ、コラージュ)	・様々な素材や用具の特性や扱い方 を理解して、安全に使うことができる。 ・様々な技法を知ることができる。 ・色や形のバランスに配慮してデザイ ンすることができる。	・様々な素材や用具 の使い方を経験し て、安全かつ適切な 扱い方の理解を深め る。	
9 10	・名画の鑑賞や模写 「寄せ絵をしよう」	7	○	・鑑賞、模写、寄せ絵	・コラージュで表現することができる。 ・輪郭に沿って、はさみで切ることが できる。	・写真アプリや画像加 工アプリを使用する。	
11	・学習発表会に向け て ・鑑賞	3		・小道具制作 ・展示準備、片付け	・小道具制作などのアイデアを考え て、描いたり造形したりすることがで きる。	・芸術教育の充実を 図るため、校内外の 作品展示の機会を積 極的に活用する。	
12	・鑑賞 ・名画の鑑賞や模写 (クレイ)	3	○	・展示見学、他の児童・生 徒の作品鑑賞 ・クレイの作品鑑賞、模写	・作品を鑑賞して、自分や他者の作品 のよさを見付けることができる。 ・多様な芸術文化への、興味関心を高 めることができる。	・インターネットやスラ イドショーを使い、名 画について調べる。	
1 2 3	・革工芸 「レザークラフトで コースターを作ろう」	9		・革を使ったコースター制 作	・手指の巧緻性を高めることができる。 ・素材に積極的に触れて、表現に活用 することができる。 ・刻印を組み合わせ、柄をデザイン し、好きな雰囲気を表現することがで きる。 ・様々な素材や用具の扱い方を理解し て、安全に使うことができる。 ・1年間、学習したことを振り返ることが できる。	・制作方法、手順を 視覚的に簡潔に説明 し、実演して見せる。 ・見本となる参考作品 を提示する。	

※タブレット端末を活用する予定の内容については、★欄に○をつけています。